

令和6年度 小・中学生の描く 「人にやさしい福祉のまちづくりポスター」作品展 審査総評

パリ 2024 オリンピック・パラリンピック競技大会に沸いた今年の夏。私たちが住む札幌にも競技者の熱い想いが届いたことかと思えます。そのオリンピック憲章の中には「オリンピック・ムーブメントの目的は、いかなる差別をも伴うことなく、友情、連帯、フェアプレーの精神をもって相互に理解しあうオリンピック精神に基づいて行なわれるスポーツを通して青少年を教育することにより、平和でよりよい世界をつくることに貢献することにある。」とあります。これは、スポーツだけではなく、“まちづくり”を考える際にも重要な視点だと考えます。誰もが相互に理解し、尊重し合えるそんな未来を形作っていく、その一つが本作品展の役割でもあると思います。



さて、図工や美術の学習では、伝えたいことから発想や構想をし、技能を働かせながら絵に表す活動があります。本作品展では、「人にやさしい福祉のまちづくり」をテーマに、“誰に”、“どのように” 伝えるのかを、それぞれの学年の発達に応じて表現しています。それらの表現からは、人に優しくするためには、どのような形や色で表せばよいのかを考え、表し方を自分なりに工夫している子どもの顔が浮かんでくるようです。

今回の審査の中で印象深く残っていることは、「人そのもの」に焦点を当てている点です。自分や家族、友達などの身近な人だけではなく、まちですれ違うだけの「他者」が、誰かにとっての家族や友達といった大切な人でもあるというメッセージが表現されていました。福祉という観点を超え、人と人がつながり、やさしさを生み出そうとする前向きであたたかな想いがポスターの中に表現されています。そこからは、作者の福祉に対する真摯な姿勢が感じられます。

ポスターを描くことを通して、また、子どもが描いたポスターを見ることを通して、一人の札幌市民として“人にやさしい福祉のまち”について考えるととても良い機会になっていると思います。

これからも、作品づくりを通して人に、そして自分にもやさしくできるような福祉のまちをつくる心が育まれることを願っています。